

「手づくり郷土賞」認定証伝達式を小樽市で開催します

～小樽雪あかりの路実行委員会が大賞部門を受賞～

平成30年度「手づくり郷土（ふるさと）賞」（国土交通大臣表彰）の認定証伝達式を以下のとおり、小樽市において開催します。

伝達式では、北海道開発局長から受賞団体（小樽雪あかりの路実行委員会）に認定証及び副賞の楯をお渡しします。（式次第は「別添1」参照）

また、手づくり郷土賞選定委員会の鈴木伸治委員長（横浜市立大学国際総合科学部 教授）から受賞団体に大賞部門グランプリの表彰状を授与していただき、御講評もいただく予定です。

国土交通省では、地域の魅力や個性を創出している社会資本及びそれと関わりがある優れた地域活動が一体となった成果を「手づくり郷土（ふるさと）賞」（別紙「参考資料」参照）として表彰しています。

平成30年度は全国各地から応募のあった53件（一般部門47件、大賞部門6件）の中から、23件（一般部門20件、大賞部門3件）の優れた取組が選定され、大賞部門で小樽雪あかりの路実行委員会が選定されました。（活動の詳細は「別添2」参照）

また、平成30年12月16日に開催された「手づくり郷土賞受賞記念発表会～グランプリ2018～」において、同団体が大賞部門のグランプリを受賞しました。

【認定証伝達式】

受賞件名：小樽雪あかりの路

受賞団体：小樽雪あかりの路実行委員会

日時：平成31年2月15日（金）16：00～

場所：小樽市役所 本館2階市長応接室（小樽市花園2丁目12-1）

※伝達式（認定証伝達・副賞贈呈）は公開で行います。取材を希望される方は、「別添3」の申込書により2月14日（木）12時までにお申し込み願います。

※取材される場合は、伝達式開始時間の5分前（15：55）までに会場にお越しください。

※記念撮影終了後に、受賞団体との取材時間をご用意します。

【問合せ先】国土交通省 北海道開発局 電話（代表）011-709-2311

開発監理部 開発調整課 課長補佐 新妻 憲嗣（内線5475）

開発監理部 開発調整課 上席開発計画専門官 木村 康一（内線5470）

北海道開発局ホームページ <http://www.hkd.mlit.go.jp/>

平成30年度「手づくり^{ふるさと}郷土賞」認定証伝達式

受賞件名 小樽雪あかりの路

受賞団体 小樽雪あかりの路実行委員会

日 時：平成31年2月15日(金)16:00～16:20
場 所：小樽市役所 本館2階市長応接室
(小樽市花園2丁目12-1)

1. 開 式
2. 認定証伝達・副賞贈呈（北海道開発局長）
3. 挨拶（北海道開発局長）
4. 表彰状授与（手づくり郷土賞選定委員長）
5. 講 評（手づくり郷土賞選定委員長）
6. 閉 式
7. 記念撮影

①社会資本の概要

小樽運河は、船を接岸し運搬作業を効率的に行うため、大正12年に完成した水路です。戦後、港の埠頭岸壁整備によりその使命を終えましたが、埋立を巡る論争の末に、昭和61年に現在の姿に生まれ変わりました。また、手宮線(旧国鉄手宮線)跡地は、幌内鉄道の一部として明治13年に開通した北海道で

最初の鉄道で、昭和60年の廃線後、線路や遮断機などを残し、散策路として整備されました。小樽運河や手宮線跡地をはじめとする歴史的遺産は、今や小樽を代表する観光スポットとなっており、「小樽雪あかりの路」は、こうした市民の手により守られてきた遺産をメイン会場として開催しています。



人気の観光スポット小樽運河



憩いの散策路でもある手宮線跡地

②取組の背景、取組概要と創意・工夫

小樽運河が現在の姿に整備されて以降、小樽市は日本有数の観光都市となり多くの観光客が訪れていましたが、季節の変動が大きく冬期の観光客が少ない状況でした。また、通過型観光が主流で宿泊客も少なく地域への経済効果が十分に得られていませんでした。そのため、運河や手宮線跡地等の小樽の代表的な歴史的遺産を活用して冬の夜間に魅力的にし経済の活性化に繋がたいと考え、毎年2月に10日間の「小樽雪あかりの路」を開催しています。豪雪地帯ならではの白く美しい雪で

オブジェを作り、ろうそくのあかりのみを灯して冬の夜を演出するイベントで、小樽運河や手宮線跡地を始め、市内全体が延べ12万本ものろうそくのあかりで彩られます。ろうそくや小樽運河に浮かべるガラスの浮き玉は小樽産を使用し、できるだけ地域資源を活用します。また、オブジェを作るのもろうそくを灯すのも、延べ2,000人を超えるボランティアの人々が全て手作業で行います。人の手を掛けることに拘ることで、来てくださるお客様との心と心の交流を大切にしています。



「雪あかりの路」小樽運河会場



あかりを灯すボランティア



工夫を凝らしたオブジェの一つ

③活動の成果や波及効果等

「メイドインオタル」の地域資源活用に拘ったことにより郷土愛の醸成に繋がり、小さな子供から学生、高等支援学校の生徒、お年寄りまで多くの地域住民が参加するイベントになりました。また、ボランティア約2,000人のうち約600人の外国人の方々が、自国で小樽の魅力を自主的に発信することで、更なる小樽の国際観光都市化にも繋がっています。その成果もあり2月の外国人宿泊客数は、イベント開始前の平成10年には100人程度だったが、平成30年には約28,000人にまで増加しています。



メイドインオタルの浮き玉キャンドル



小さな子供も雪あかりに夢中



多数参加する海外ボランティア

④前回受賞時からの活動の発展内容

前回受賞(平成16年)時と比べ、来場者やボランティア数が増加し、特に海外ボランティアは韓国人約280人だったのが約500人、中国人が約100人と人数だけでなく参加国も増えています。また、来場者との交流を図るバックヤードツアーやスタンプラリー、関連企画として音楽コンサート開催等、幅広く活動が発展しています。

喜びの声



<受賞者>
小樽雪あかりの路実行委員会
実行委員長 西條 文雪

<コメント>
この度の受賞は、歴史的遺産を保存し、このイベントを考案した先人達の先見の明と、多くのボランティアの努力の賜物です。21回目の開催に向けて弾みがつきましたので、これまで以上に来場者に感動していただけるイベントを目指します。

<活動内容>

- ・イベント「小樽雪あかりの路」の開催
- ・雪解け季節の社会資本の清掃活動
- ・公式ホームページやフェイスブック等による一年を通じた情報発信
- ・年間を通じた実行委員会3回、検討委員会約15回等のイベントの企画、運営
- ・近隣市町との共同ポスター制作等の連携活動

<活動の経緯>

平成10年 雪あかりの路実行委員会設立
平成11年 第1回「小樽雪あかりの路」開催
平成16年 手づくり郷土賞(一般部門)受賞
平成18年 ふるさとイベント大賞(財団法人地域活性化センター主催)大賞受賞
平成30年 20周年記念誌発行

◆所在地

北海道 小樽市

◆活動主体及び連絡先

小樽雪あかりの路実行委員会
(小樽市産業港湾部観光振興室)
(0134-32-4111(内線267))

<http://yukiakarinomichi.org/>

◆対象となる社会資本

小樽運河、手宮線跡地 ※管理者：小樽市



北海道開発局 開発調整課 宛 (FAX 011-709-9215)

申込書（報道関係者）

平成30年度手づくり郷土賞認定証伝達式

日 時：平成31年2月15日(金) 16:00～

場 所：小樽市役所 本館2階市長応接室

受賞件名：小樽雪あかりの路

受賞団体：小樽雪あかりの路実行委員会

氏 名

住 所

所属（会社名等）

連 絡 先

※ご提供いただいた個人情報は、平成30年度手づくり郷土賞認定証伝達式に関する連絡以外では使用しません。

◆手づくり郷土賞の概要

地域の個性・魅力を創出し、良質な社会資本及びそれと関わりをもつ優れた地域活動を広く募集・発掘し、これらを全国に広く紹介することにより、個性あふれ活力ある郷土づくりに資することを目的として、昭和61年度に創設された国土交通大臣表彰制度。平成30年度で33回目。

【一般部門】

はじめて「手づくり郷土賞」の受賞を目指す団体から表彰

【大賞部門】

過去に「手づくり郷土賞」を受賞し、その後の活動が拡充した団体を表彰

(参考) 平成30年度手づくり郷土賞応募要領は以下のURLをご参照ください。
<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/teдукuri/entry/boshuu/bosyu.pdf>

◆手づくり郷土賞選定委員会

有識者からなる手づくり郷土賞選定委員会により、幅広い観点から審査し選定します。

手づくり郷土賞選定委員会（平成30年度）

委員長	鈴木 伸治	横浜市立大学国際総合科学部 教授
委員	河野 まゆ子	株式会社JTB総合研究所 主席研究員
委員	関 幸子	株式会社ローカルファースト研究所 代表取締役
委員	田中 里沙	事業構想大学院大学 学長
委員	平野 龍平	富士急行株式会社 社長室アドバイザー
委員	福井 恒明	法政大学デザイン工学部 教授

(敬称略)